

第9回北海道食育推進優良活動表彰 受賞者の取組概要（五十音順）

受賞者名	網走市食生活改善協議会				
所在地	網走市	代表者	会長 吉阪 一子	活動開始	平成3年5月
取組内容	<p>「親子チャレンジクッキング」「鮭丸ごと料理教室」など全ての世代を対象に、食を通じた健康づくりと地産地消、郷土料理継承など地域と協働する食育</p> <p><b>○活動内容・実績</b>          メンズキッチン、親子チャレンジクッキング、シニアクッキング、ワンディシェフの日、鮭丸ごと料理教室、生涯骨太クッキング、市民健康まつり、食育イベント、小麦フェスティバル、木育×食育アウトドアキッチン、あばしり版食事バランスガイド          ・健康レシピ集（設立30周年を記念）を関係各所、市内の各学校に寄贈</p> <p><b>○活動の成果・効果</b>          料理教室では減塩レシピを提供し、試食することで味の確認が出来ており、参加者からは普段の家庭での味付けと比べ、濃い、薄いなどの声を聞くことが出来ている。特にイベントなどで展示する1日～1年の塩の量は、来場者が大変関心を示す様子が見られる。          野菜350gについても、イベントでの野菜のレシピ提供、350g野菜展示のみではなく、それぞれの野菜の効能なども紹介し、市民の関心を高める展示方法を考えている。          また、料理教室においては新規の参加者も増加しており、アンケートでは味付けや、調理方法など参考になったとの声や、また参加したいとの感想があった。</p> <p><b>○活動の波及</b>          自主事業だけではなく、市農林課からの依頼である、北海道産小麦や地元食材を使用した料理教室や「木育×食育 アウトドアキッチン」などの新しい事業にも精力的に尽力しており、他にも高齢者福祉系の介護予防事業としての料理教室、小学校から地域の食材発見についての協力依頼などもあり、多方面で活躍中。</p>				
評価された点	地域住民の食の自立、食を選ぶ力を身に付けることを目標とし、コロナ禍でも活動を継続し、木育×食育アウトドアキッチンなど多方面で活動。				

受賞者名	札幌市食生活改善推進員協議会				
所在地	札幌市	代表者	会長 市野 美砂子	活動開始	昭和49年11月
取組内容	<p>「～私たちの健康は私たちの手で～札幌市に食育の輪を広げよう」：生涯を通じた心身の健康を支える食育を推進。</p> <p><b>○活動内容・実績</b>          子どもから高齢者まで、健全な食生活を実践することのできる食育活動に取組、栄養バランス、地産地消、食文化の継承などの大きな視点から食育を捉え、健康づくり活動を推進。また、食生活改善推進員により地域に根差した食育の輪を地域全体に波及。（コロナ感染対策の為、令和3年度は調理実習や試食を伴うイベントは中止）          ①高齢者の低栄養予防教室、②食生活改善展、③各区保健センター、関係団体への協力事業、④健康づくりレシピ集vol.2～コロナ禍のフレイル予防 を作成、⑤札幌市「広報さっぽろ」にレシピ提供（令和3年2月号、4月号、5月号）、⑥札幌テレビ放送「札幌ふるさと再発見」にて活動紹介（平成30年11月3日、<a href="https://www.youtube.com/watch?v=DCBm9MJ9IbY&amp;feature=youtu.be">https://www.youtube.com/watch?v=DCBm9MJ9IbY&amp;feature=youtu.be</a>）          ⑦北海道新聞「食改さんおすすめレシピ」（2021年10月、2022年3月）、地域新聞ふりっぱー、読売新聞、北海道テレビにレシピを提供。</p> <p><b>○活動の成果・効果</b>          ・親子料理教室では毎年楽しみにしている親子の声も聞かれ、地域に根差した事業となっている。          ・高齢者の低栄養予防教室では、アンケートで9割以上の参加者が参考になったと回答。感想等においては、参考になった、家でも作りたいという意見が多く寄せられ、高齢者の健康的な食生活の実践に効果的な事業となっている（新型コロナウイルス感染症の拡大前には試食を提供）。</p> <p><b>○活動の波及</b>          ・本市の附属機関や各区の食育や健康づくりに関する会議等において、構成委員として依頼（委嘱）を受けている。          ・特別会員として18の企業・団体がその活動を支援している。          ・子どもから高齢者までを対象に、食育活動に取り組んでいる。</p>				
評価された点	大都市でありながら、関係団体への協力、コロナ禍でも調理飲食以外の活動やメディア活用など、きめ細やかな活動を48年も継続。				

受賞者名	新篠津村食生活改善協議会				
所在地	新篠津村	代表者	会長 東川 寛子	活動開始	昭和 59 年 4 月
取組内容	<p>設立以来、行政と連携を図りながら幅広い年代に向けた食育活動を展開しています。小さな村ではありますが、会員数 57 名の組織力ある団体です。</p> <p><b>○活動内容・実績</b></p> <p>&lt; 幼児・児童対象食育 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キッズ☆キッチン、夏休みこどもクッキング、おやこの食育教室</li> </ul> <p>&lt; 高齢者対象食育 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいレストラン</li> </ul> <p>&lt; 地域住民対象食育 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝達料理講習会、・料理講習会</li> </ul> <p><b>○活動の成果・効果</b></p> <p>現在の活動内容を築き上げるまでに、他市町村との交流会を積極的に行い、活動の活性化及び向上を図ってきた。その結果、単独による事業展開に留まらず、他機関と連携した事業展開を確立。地域に密着した「食育活動・健康づくりの推進」を継続的に実施する団体となった。また、活動の内容はライフステージ別（幼児・児童・成人・高齢者）に、幅広い世代に展開しており、食育活動が十分理解され地域に浸透しており、参加者にとって、調理の楽しさを実感すること、食生活改善、健康づくりのきっかけに繋がっている。</p> <p><b>○活動の波及</b></p> <p>活動当初からの小学校との連携からはじまり、その後の保育所や社会福祉協議会との連携は、一定数の会員の維持により安定した組織力から来るものであり、地域からの信頼は厚い。</p>				
評価された点	小さな村でありながら 57 名と会員数が多く、学校、社会福祉協議会、保育所と連携し幅広い年代に対し長年活動しており地域からの信頼が厚い。				

受賞者名	認定栄養ケア・ステーション つがやす				
所在地	帯広市	代表者	医療法人社団秀和会 つがやす 歯科医院 理事長 スクリボ 理絵	活動開始	2019 年 9 月
取組内容	<p>「いつまでもおいしく食べる」をささえる地域の健康づくりの拠点</p> <p><b>○活動内容・実績</b></p> <p>&lt; 栄養相談 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般栄養相談（成人）、保健指導（成人）、一般栄養相談（小児）、・口腔機能低下（65 歳以上）、摂食機能障害（小児）、口腔発達不全（小児）</li> </ul> <p>&lt; 訪問栄養ケア &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問栄養ケア（居宅）、（グループホーム）、（サ高住）、（介護施設）（病院）</li> </ul> <p>&lt; 地域交流活動 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなのサークル～つながる～、料理講習会、歯ぐくむ教室 0-2 歳コース、「ふまねっと」タイアップ栄養講話、つがやすレター発行</li> </ul> <p>&lt; 介護食提供 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望によりカフェにて介護食を提供</li> </ul> <p><b>○活動の成果・効果</b></p> <p>口腔機能を維持することの大切さを丁寧に説明し、実際に計測結果等で自分自身の口腔機能をフレイル状態を理解してもらうことで、健康維持・増進および健康寿命の延伸につながっていると考える。地域交流活動は継続することで認知度も上がり、地域住民の楽しみになるよう内容を充実させていきたい。交流する場の存在自体が地域の活性化につながると考える。</p> <p><b>○活動の波及</b></p> <p>訪問栄養ケアについては、管理栄養士が自宅に訪問し、普段の食事についての相談や調理指導を受けられるサービスを知られていないのが現状であり、少しずつ介護福祉関係者に周知してもらい、実施件数が増えつつある。地域交流活動について、コロナ禍でイベント自粛が続く中、外に出掛ける機会をつくるためにも定期開催を続けることは意義があったと感じている。</p>				
評価された点	歯科に栄養士がいる健康づくりの地域拠点として活動。相談件数の多さや地域交流活動、介護食をカフェで提供するなど健全な食生活を推進。				